



あけぼの

第 52 号 2026. 3. 1
宇和特別支援学校
(知的障がい部門)
図書館発行

「読書を楽しもう！」

校長 原 喜代佳



今年度赴任することが決まった時に、前任の松本校長から「他の学校にはない、大切な仕事があります。」と引き継ぎをされたことが二つ。一つは「子供の読書活動優秀実践校」として表彰式に出席すること、もう一つは「星の王子様」の地理学者になることでした。

この二つから様々なことにチャレンジしている学校という印象がもてたものの、四月末の表彰式は、どうして表彰されたのかも詳しくは分からないまま、とにかく東京へ。表彰は「子ども読書フォーラム」というイベントの中で実施されました。給食の献立と大型絵本のコラボなど、様々な活動報告は大変勉強になりました。そこで感じたのは、読書活動は座って静かにするだけで

はないということ。本校の図書委員による読み聞かせの活動も聞いて、見て、感じる活動です。そのような活動が、今回受賞できた大きな理由の一つだと思います。私自身の生活を振り返っても、家では寝転んで雑誌を読む、本の内容をそのまま読み上げ機能で聞く等、紙の本を静かに座って読むことは減りました。それでも、新しい物語に出会うわくわく感是十分に味わえます。

もう一つの「星の王子様」について。絵本は子どものころに観た気がすると思いがながら、動画を見て内容確認。その後、台本の存在を知り、読みました。（ここでやっと文字の登場です！）製本された台本のおかげで、掃除の時間にかかる歌の歌詞も分かるようになりました。やっぱり文字情報は大切！台本、ありがとう。公演に向けて、校長室で座って熟読。当日の地理学者は・・・どうだったのでしょうか。

こうして、私の他校にはない大切なミッションは、皆さんの日頃の頑張りを支えられ、無事終わりました。しかし、これからも皆さんの読書活動は続きます。さて、皆さんはどんな読書をしていますか？寝転がってペラペラめくる派？音声読み上げ？紙の本をしっかりと読む派？私は全部をその時の気



分で、ほんの少しずつ。最近のお気に入りには「翻訳できない世界のことば」という翻訳絵本です。電子書籍の購入だったので、残念ながら皆さんにお貸しできないですが、「翻訳できていないじゃないか！」と突っ込みたくなった人は、スマートフォンの小さな画面でよければお見せしますので、声をかけてください。ちなみに、翻訳できない日本語の一つに「TSUNDOKU（積ん読）」がありました。日本特有の読書スタイルなのではないでしょうか？

読書のスタイルもジャンルも、様々なものがありますが、どんな方法でも、皆さんの好きな方法、できる方法で楽しく続けることが大切です。新しい世界を発見したり、空想の世界を旅したり、あなたの読書スタイルで新しい自分との出会いが得られますように。

多読賞

本校では、「児童・生徒の読書意欲を高める」ことを目的として、毎年多読賞の表彰を行っています。

一月末までに目標読書冊数に達した一名が表彰されます。

中学部（四十冊以上） 一名

中一 A 福原 丈瑠 五十冊



図書委員会の活動

本校の図書委員会は高等部一年生から三年生で活動しています。主な活動は、月に一回の図書委員会とお話会、昼休みの貸出当番、図書の整理です。

毎月のお話会では図書委員が絵本のページを分担し、読む練習をして本番に臨んでいます。お話会には、たくさん児童生徒が聞きに来てくれました。

これらの活動を評価していただき、令和七年度子どもの読書活動優秀実践校に選ばれ、校長先生が東京にて学校代表として賞状をいただきました。

これからも、児童生徒が読書活動に興味関心を持ち、積極的に読書活動を行う意欲が高まるように、図書委員会の活動を進めていきたいと思います。



『魔女だったかもしれないわたし』を読んで

高等部一年F組 久保 あい

(本のあらすじ)

「人たちがう」それだけで魔女の烙印を押され、命を奪われた人々がいたことを知った自閉的傾向のある少女アディ。魔女として迫害されていた人たちの中には、自分のような人が含まれていたのではないだろうか。恐怖に立ち向かい、自分らしく生きることを肯定するために、アディは何を考え、どう行動するのか…?

(感想文)

「私もみんなと同じだったら良かったのに。」

この文を読んだとき、自分と主人公が重なっているかのように感じました。今まで、友達やクラスメイトと話すとき、話についていくことが困難で悩むことがあったからです。それで、私にも主人公の気持ちがかかるような気がしました。

そんな思いが変化し始めたのは、「魔女にされたくないければ、とにかく人目に付かないようにするしかなかった」という言葉を目にしたことがきっかけです。「普通にして目立たないよう」無理をしている主人公の姿が、とても不自然に感じられたのです。目立つのは、本当に悪いことなのでしょうか。目立つのは、自分だけの個性があるということです。だったら、目立つというのは、逆に良いことなのではないかな、そんな風に感じてきたのです。だから、その人だけの個性を認めて、目立っていることこそ素敵なのだと、今は思っています。

この本を読んで、辛い経験をした主人公だ

からこそ、自分というものを見つけて、それを受け入れられているのだと感じました。私の「私らしさ」とは一体どういうものなのか、まだ自分自身、見つけられていないことがたくさんあるのではないかと思います。だから、これから私も、自分らしさを見つけて、自分だけの個性を受け入れて生きていきたいと思いました。



『五体不満足』を読んで

高等部二年G組 竹田 凌大

(本のあらすじ)

ボクは、五体不満足な子として生まれた。不満足どころか、五体のうち四体までがない。けれども、多くの友人に囲まれ、車椅子とともに飛び歩く今の生活に、何ひとつ不満はない。ボクは声を大にして言いたい。「障害を持つっていても、ボクは毎日が楽しいよ。」健常者として生まれても、ふさぎ込んだ暗い人生を送る人もいる。そうかと思えば、手も足もないのに、ノー天気に行き回っている人間もいる。関係ないのだ、障害なんて。(あとがきより)

(感想文)

この本の中で、僕が一番好きな言葉は「障害は不便である。しかし、不幸ではない。」です。なぜなら、この言葉はどんな難しい状況にも立ち向かえる勇気を与えてくれると感じるからです。この言葉から、色々なことが不自由であってもできることがいっぱいあるのだと僕は学びました。僕にも、苦しいことがいくつかあります。でも、だからといって人生がつらいとか、不幸だとは思いません。この言葉を聞いて、まさしくその通りだと思いました。

乙武さんと僕には似ている部分があります。それは、周りの人に恵まれているところです。小学校でも中学校でも、そして今も、僕の側には気軽に話ができる人や、ほのぼのとした気持ちになれる人がいます。この本を読んでそれに気づき、僕は温かい気持ちになりました。友達や家族のありがたみを実感することができたからです。この気持ちを忘れず、幸せで温かい毎日を送りたいと思いました。



『君がいるから』を読んで

高等部三年F組 萩森 聡太

(本の紹介文)

「僕が君にとって宇宙で一番頑丈で、安全な場所になるよ」ねことペンギンのあたたかな友情に癒されるイラスト&メッセージブックです。

(感想文)

この本には、優しい言葉や動物のイラストがいっぱい詰まっています。読むと心が落ち着きます。そして、かわいい動物に癒されます。たくさんの人におすすめしたいです。

印象に残っているのは「この世界で君の力で変えられるものがあるとしたらひとつ、君自身だけ(中略)頭を上げて、堂々と前を見て、君自身が、君の人生の責任を持とう。」いう場面です。これは、自分自身の人生を自分の力で変えられるということなのだと思います。過去に嫌なことや失敗したことがあっても、大丈夫。未来は変えられる。それが分かっている、僕の中に希望が生まれました。

困ることや悩むことが、誰にだってあると思います。僕もそうです。でも、くよくよしていても仕方がありません。前向きに、気を取り直して進んでいきたいと思えます。少しずつ、自分を変えて、未来を変えて、好きな自分になりたいです。ゆったりと穏やかな時間を過ごしたいです。



読書感想画



「星の王子さま」

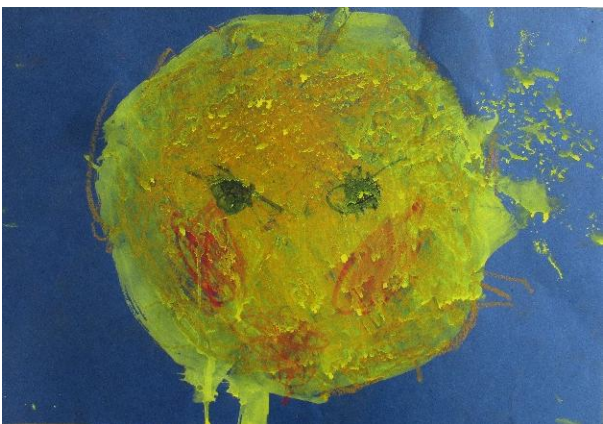
中学部二年C組

家藤 春菜
加藤 秀明
辰巳 亮太
山下 瑛太
山口 みい

「おつきさまこんばんは」

小学部二年月組

三好 詩恩



「にじいろのさかな」

小学部三年月組

石山 桐
井上 嘉己
澤近 想
渡邊 京介